

平成24年度 天王寺区地域福祉アクションプラン 第1回 障がい班会議

日時：平成24年6月6日（水）午後1時30分～3時30分

場所：区在宅サービスセンターゆうあい2階 多目的ルーム

天王寺区地域福祉アクションプラン推進委員会第2部会障がい班では、平成21年度、障がい当事者の方を対象にアンケートを行い、230名の回答を得、平成22年度は、課題整理し、平成23年度は、その課題3つのうち①相談窓口が分かりやすいシンプルな広報の作成、②地域で障がいの理解を深めるための勉強会の開催を進めました。また、障がいのある方と地域の交流促進を目的とした「ボッチャ大会」にも継続して取り組んでいます。平成24年度も、障がいのある方の意見も随時聞きながら、これらの取り組みを継続して行うことが確認されました。

6月6日の会議では、まず、5月26日に開催された味原地区ボッチャ大会の報告を行いました。大会参加者のアンケートには、小学生17名のうち9名が「今回のボッチャ大会で初めて障がい者と交流した」と回答がありました。また、高齢者の方とボランティアの方24名のうち、23名が「本日のボッチャ大会が障がいのある方とふれあう機会となった」とあり、障がいのある7名全員が、「今日のボッチャは楽しかった」、「またボッチャ大会に参加したい」と答えました。このことから、ボッチャ大会が障がいのある方と地域との交流を生み出すきっかけとなったことが分かり、さらに今後の交流につながっていくことが期待されます。

また、昨年度作成した相談窓口の広報とふれあい喫茶の広報の配布経過について、医師会や歯科医師会、薬剤師会、喫茶店や町会の掲示板、郵便局にも配布したことを報告すると、班員の皆さんからも「病院の待合室で見ました」「個人宅で貼っているのを見ました」などの声がありました。

平成21年度に行ったアンケート結果を整理した課題の3つ目である「障がいのある方、そのご家族を支えるボランティアの育成」について、どのように進めるかを話し合ったところ、ボランティア育成のために必要な手続きやシステムなどを、まずよく調べる必要があるとの意見でまとめ、まずは障がいについて理解を深めてもらう取り組み（勉強会や花見会などの交流）を進めていくことの必要性が確認されました。

今後も障がいのある方にとって住みやすいまちを目指して取り組みを進めたいと思います。

